



西澤泰彦最終年度イベント

お世話になったみなさまとの語らいの場

20250826西澤泰彦

お世話になった皆さんへのお礼の気持ちを学術的にお示しするために、「西澤泰彦最終年度イベントーお世話になったみなさまとの語らいの場」を企画しました。これまでのいろいろな活動に関係された方々と懇談してみたいと思います。ご関心のある方、ご都合に合わせて、ご参加いただければ幸いです。

その3 テーマ「近代化遺産」

イベント名:ドライドックの成立と展開が示す日本の近代化の夜明け

藤原恵洋・西澤泰彦が語る日本のドライドック

開催日時: 2025年10月11日(土)14:00-17:00

会場:名古屋大学ES総合館4階講評室(30名)+オンライン(70名)

登壇者:藤原恵洋+西澤泰彦

主催:西澤泰彦+科研「喪失技術としての炭滓・鉬滓煉瓦の復元」研究班
(代表:Sanjay Pareek日大教授) 協力:名古屋大学建築学教室

その4 テーマ「日本近代建築史」

イベント名:シンポジウム「公共施設のRC造化が示すこと」

開催月日:2025年11月29日(土)13:30-17:30

場所:名古屋大学環境総合館1階レクチャーホール

主催:科研「近代日本の公共施設RC造化」研究班(代表:西澤泰彦)

「文化遺産としての近現代建築物の保存活用に向けた学びあいと
人的ネットワーク構築」(トヨタ財団国際助成プログラム)



その5 テーマ「地域連携」

イベント名:瑞穂を歩いて考えたこと+得たもの

開催月日:2025年12月10日(水)16:30-18:00

場所:名古屋大学環境総合館3階講義室1

主催:名古屋大学環境学研究科持続的共発展教育研究センター
瑞穂うるおいまちづくり会



問い合わせ/申込:nszw@nuac.nagoya-u.ac.jp

この後も複数回のイベントを予定。順次公表予定。



西澤泰彦最終年度イベント

お世話になったみなさまとの語らいの場 その3

テーマ:近代化遺産

イベント名:ドライドックの成立と展開が示す日本の近代化の夜明け

藤原恵洋・西澤泰彦が語る日本のドライドック

「明治日本の産業革命遺産(製鉄・製鋼、造船、石炭産業)」の世界遺産登録のために設けられた「九州・山口の近代化産業遺産群」世界遺産登録推進協議会比較調査(造船)委員を務めた二人の専門家が日本のドライドックについて語り合う。特に、日本のドライドックの特徴、とくに石造、煉瓦造といった組積造の構造物としての特徴、港湾施設としての役割、ドライドックが持つ社会的意味について語り合う予定。後半は参加者との意見交換もおこなう。

開催日時: 2025年10月11日(土)14:00-17:00

会場:名古屋大学ES総合館4階講評室(30名)+オンライン(70名)

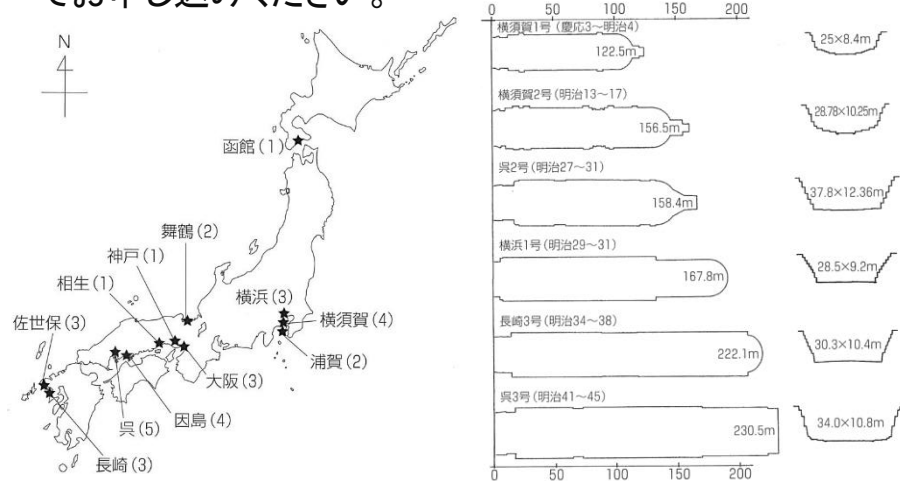
登壇者:藤原恵洋+西澤泰彦

主催:西澤泰彦+科研「喪失技術としての炭滓・鉍滓煉瓦の復元」研究班
(23K26249、Pareek科研)

協力:名古屋大学建築学教室

参加申込先: nszw@nuac.nagoya-u.ac.jp

氏名・所属・参加方法(対面／オンラインのいずれか)・返信先メールアドレスを書いてお申し込みください。



左: 明治時代に竣工したドライドックの分布

中: 明治時代に建設されたドライドックの規模比較図

日本ドライドック年表(簡易版、導入期・定着期のみ記載)

時期	竣工順	竣工時名称	所在地	起工－竣工	設計／監理	構造	全長/渠口幅/渠口深
導入期	1	浦賀造船所乾船渠	浦賀	?-1860			
	2	三重津海軍所船渠	佐賀	?-1861		木造	50m/22.3m/? (数値推定)
	3	横須賀製鉄所第一号船渠	横須賀	1867.4-1871.2	F. L. Verny +L. F. Florent/?	石造	122.5m/25m/8.5m
	4	横須賀造船所第三号船渠	横須賀	1871.6-1874.1	F. L. Verny +L. F. Florent/?	石造	94m/13.8m/6.9m
	5	工部省長崎造船所第一号船渠	長崎	1874.3-1879.5	V. C. Florent/?	石造	129.1m/?/?
	6	大阪鉄工所船渠	大阪	? -1883.5	G. F. Coder/?	木造	60.6m/8.6m/3.2m
	7	横須賀造船所第二号船渠	横須賀	1880.7-1884.6	E. A. Juet/恒川柳作	石造	156.5m/28.78m/10.25m
定着期	6'	大阪鉄工所第一船渠	大阪	? -1888.5	?/佐藤成教	石造	75.77m/11.3m/3.9m 6の改修
	8	呉海軍工廠第一船渠	呉	1889.4-1891.3	山崎鉦次郎/恒川柳作	石造	131.4m/23.4m/10.8m
	9	佐世保海軍工廠第一号船渠	佐世保	1893.3-1895.8	石黒五十二/恒川柳作	石造	141.4m/30.3m/11.8m
	10	三菱長崎造船所第二号船渠	長崎	1895-1896.11	? / ?	石造	112.4m/20.0m/7.5m
	11	横浜船渠第二船渠	横浜	1895.1-1896.12	恒川柳作/?	石造	128m/18.5m/8.3m
	12	石川島造船所浦賀分工場船渠	浦賀	1896.2-1898.11	大倉桑馬/恒川柳作＋山崎鉦次郎	煉瓦造	136.7m/16.4m/9.7m
	13	呉海軍工廠第二船渠	呉	1894.6-1898.12	達村容吉/達村容吉＋渡辺譲	石造	158.4m/37.8m/12.36m
	14	横浜船渠第一号船渠	横浜	1896.7-1898.12	恒川柳作/?	石造	167.8m/28.5m/9.2m
	15	浦賀船渠	浦賀	1898-1899.11	杉浦栄次郎/?	煉瓦造	148.4m/19.7m/8.4m
	16	佐世保海軍工廠水雷艇船渠	佐世保	? -1902.5	吉村長策/真島健三郎	C造＋石造	(不明)
	17	川崎造船所船渠	神戸	1896.11-1902.11	山崎鉦次郎/山崎鉦次郎	石造	128.98m/19.51m/8.54m
	18	舞鶴海軍工廠第一号船渠	舞鶴	1899.11-1904.7	石黒五十二/恒川柳作	石造＋C造	206.7m/26m/12.1m

西澤泰彦「明治時代に建設された日本のドライドック」『土木史研究』Vol.19, 1999.7を基に作成

藤原恵洋(九州大学名誉教授)

九州大学工学部建築学科卒業、東京藝術大学大学院修士課程修了・藝術学修士。東京大学大学院博士課程修了・工学博士。近代建築史学を軸に土木史・近代化遺産・東アジア開港場研究からドライドックへ接近。黎明期の東京建築探偵団・土木探検隊メンバー。九州大学名誉教授。文化審議会世界文化遺産部会元委員。



西澤泰彦(名古屋大学環境学研究科教授)

名古屋大学工学部建築学科卒業、東京大学大学院博士課程修了。博士(工学)。旧横須賀海軍工廠の調査を契機に大学院博士課程の頃よりドライドックの研究を始める。旧横浜船渠第二船渠の保存活用や旧川崎造船所船渠の登録文化財申請に関与。現在、一般財団法人名古屋大学出版会理事長も務める。





西澤泰彦最終年度イベント

お世話になったみなさまとの語らいの場 その4

お世話になった皆さんへのお礼の気持ちを学術的にお示しするために、下記のような「西澤泰彦最終年度イベント」を考えました。ご関心のある方、ご都合に合わせて、ご参加いただければ幸いです。

テーマ「日本近代建築史」

イベント名：シンポジウム「公共施設のRC造化が示すこと」

1910年代から1950年代にかけて進んだ公共施設のRC造化について、耐火耐震耐風や施工など建築構造や建築技術の視点、陸屋根の活用など平面や用途・機能の視点、RC造建築が持つ社会的意義という視点など複眼的な視点から公共施設のRC造化を考えてみます。

開催月日：2025年11月29日（土）13:30-17:30

場所：名古屋大学環境総合館1階レクチャーホール（定員70名）

13:30 開会

13:40 第1部 科研研究班からの報告

科研研究班による全国各地で起きた公共施設のRC造化の報告

16:00 第2部 意見交換

海外研究者（尹仁石韓国成均館大学校名誉教授＋黄俊銘台湾中原大学兼任副教授）と科研研究班との意見交換

主催：科研「近代日本の公共施設RC造化」研究班（代表：西澤泰彦）

「文化遺産としての近現代建築物の保存活用に向けた学びあいと人的ネットワーク構築」（代表：荒木慶一京大教授、トヨタ財団国際助成プログラム）

参加申込先：nszw@nuac.nagoya-u.ac.jp

氏名・所属・返信先メールアドレスを書いて申し込みください

【参考】シンポジウム前日開催の建築学総合セミナーに尹仁石先生が登壇
尹仁石「韓国近代建築史研究におけるRC造建築」

開催日時：2025年11月28日（金）16:30-18:30

開催場所：名古屋大学オオクマホール 主催：名古屋大学建築学教室



西澤泰彦最終年度イベント

お世話になったみなさまとの語らいの場 その5

お世話になった皆さんへのお礼の気持ちを学術的にお示しするために、下記のような「西澤泰彦最終年度イベント」を考えました。ご関心のある方、ご都合に合わせて、ご参加いただければ幸いです。

テーマ「地域連携」

イベント名：瑞穂を歩いて考えたこと＋得たもの

場所：名古屋大学環境総合館3階講義室1

開催年月日：2025年12月10日（水）16:30-18:00

瑞穂うるおいまちづくり会（2003-現在）の活動を紹介しながら、資金が無くてもできる地域連携、外部資金とは無関係な地域連携のありかた、地域住民・市民と教員の協働の在り方を懇談予定。

プログラム

16:30 趣旨説明＋参加者紹介

16:40-17:10 報告「瑞穂を歩いて考えたこと＋得たもの」（西澤）

17:10-17:55 意見交換

17:55-18:00 まとめ・閉会

コーディネーター：高野雅夫（持続的共発展教育研究センター長）

主催：名古屋大学環境学研究科持続的共発展教育研究センター
瑞穂うるおいまちづくり会

参加申込先：nszw@nuac.nagoya-u.ac.jp

氏名・所属・返信先メールアドレスを書いて申し込みください

